設楽発掘通信
No.13
平成２７年
９月号

笹平遺跡の地元説明会を開催しました。

さる八月八日の土曜日に、笹平遺跡の地元説明会を開催しました。当日は酷暑のなか、七十九名もの方々のご参加があり、縄文時代中期末から後期の竪穴建物跡のほか、人のかたちを模した岩版とよばれる石製品や石棒、石冠など多数の遺物をご覧いただくことができました。笹平遺跡では調査の終盤にもう一度、地元説明会を予定していますので、是非ご期待ください。

お盆明けからは八橋地区にある滝瀬遺跡の調査が始まりました。八月中の作業は調査区を囲むフェンスの設置と重機による表土はぎで、大栗遺跡の調査が終わる九月中旬ごろから作業員さんが入っての本格的な発掘調査となる予定です。

本年度の調査区のすぐ東側には、かつての伊那街道が田んぼのあぜ道としてその痕跡をとどめています。また、試掘調査では縄文時代の遺構・遺物を多数確認しており、これからの発掘調査への期待を抱かせてくれます。

滝瀬遺跡では、十月下旬か十一月上旬ごろには地元説明会を開催する予定です。日程が決まり次第、またこの『設楽発掘通信』にてご案内致しますので、地元の皆様方にはご参集のほど、よろしくお願い申し上げます。

（愛知県埋蔵文化財センター　樋上　昇）

写真１　笹平遺跡 地元説明会の様子

写真２　滝瀬遺跡の様子
（上：南からの遠景、
下：近代以降の耕作土を
剥いでいるところ）

笹平遺跡の発掘調査

笹平遺跡の調査は、15A区終了後、15B区の調査を順次進めております。見つかった遺構は、竪穴建物跡の他に袋状土坑・土器埋設遺構・土器棺墓などがあります。（写真3）。

二棟の竪穴建物跡からは直径十センチ～五十センチの石がたくさん出土しています。二基のうち一基の竪穴建物跡からは炉跡（写真4）が見つかっています。出土している土器などから、二棟の竪穴建物跡は共に縄文時代後期（およそ四千年前）に築かれたと思われます。竪穴建物跡の床などに石を置く特徴は、縄文時代後期頃にも見られます。

袋状土坑は、穴の口に比べて、穴の中が広がっている土坑です。今回見つかった二基は直径が一メートル五十センチほどあります。一方の土坑からは、縄文土器（写真5）が大きな破片で出土し、J字に似た文様が表面にみられます。これは昨年度調査が行われた西地・東地遺跡で出土した土器（設楽発掘通信№9）と近い文様と思われます。

土器埋設遺構は二基見つかっており、いずれも土器を直立して埋設しています。一方の土器は底が残っており、もう一方の土器は底が無く下に土器の破片を敷いています（写真6）。

土器棺墓は、埋葬をするために、穴の底に土器を置いて棺としたお墓です。今回出土した土器棺墓は弥生時代前期（およそ二千五百年前）と思われます。土器を横倒しに置いて、口に当たる場所には、大きな土器の破片が被せてあります（写真7）。

（株式会社二友組　田村典雄）

写真3　15A 区・15B 区全景 (上が北西)

写真6　土器埋設遺構 (565SK)

写真4　竪穴建物跡 (788SI)

写真7　土器棺墓 (681SK)

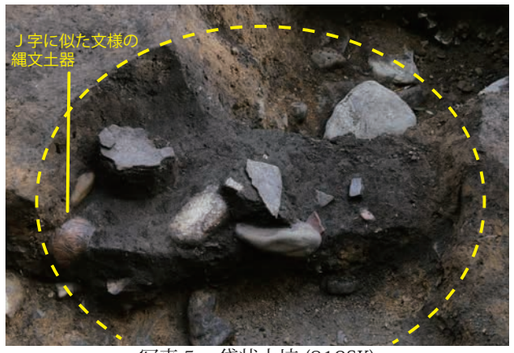

写真5　袋状土坑 (813SK)

川向東貝津遺跡の発掘調査

川向東貝津遺跡の調査は、A 区（調査区の西半部）の調査の終わりが見えてきました。一面目の遺構掘削は終了し、先月はじめに空中写真撮影を行いました（写真8）。

一面目では、多くの遺構が検出できました。その中でも特に注目すべき遺構は竪穴建物跡です。以前お伝えした時点では五基見つかっていましたが、最終的にはA区で合計八基の竪穴建物跡が確認できました。これらの建物跡は、馬蹄形に並んでいるようにもみえます。小規模ではありますが集落としての形をほぼとらえることができたのではないかと思います。

また、調査区北東部に位置する竪穴建物跡は、二〇一〇年の調査で埋甕が出土した地点と近接しています。関連性は断定できませんが、この建物跡に伴うものであった可能性があります。

遺物の様相としては、前号までに大きく分けて二つの時代の遺物が見られることをお伝えしていました。ひとつは縄文時代草創期（一万二千年以上前）以前のもの、もうひとつは縄文時代中期～後期（およそ五千五百～四千年前）のものです。さらにその後の調査で、押型文土器と呼ばれる土器が見つかりました。これは縄文時代早期（約一万年前）にさかのぼる土器です。この土器に伴う遺構は現在のところ見つかっていませんが、この時代にも周辺で生活をしていた人々がいたようです。

調査が進行して遺跡の全体像が見えてきましたが、今後も新たな成果が出る可能性もあります。先日も新たに状態のいい埋甕が出土しました。この埋甕に関しては、次号で詳細をお伝えしたいと思いますのでご期待ください。

（株式会社二友組　岩瀬大輔）

写真8　A区全景 (上が北、赤線は竪穴建物跡の位置)

大栗遺跡の発掘調査

大栗遺跡は現在、15B区の表土掘削、遺構検出、遺構掘削をしています。まだ作業を始めて日が浅いので、調査が完了した15A区の調査成果を記載したいと思います。

写真9はラジコンヘリによる空撮風景です。ラジコンヘリのおなかにカメラを付け、モニターを見ながら撮影しています。写真10は大栗遺跡の西から撮影した写真です。左手には笹平遺跡、奥には設楽大橋が見えます。写真11は15A区で約十メートル四方で遺物が集中した範囲の写真です。先月号の縄文土器・石鏃はこの範囲の表面から出土しました。縦横に深掘りしたところ、堆積層の厚さは約五十センチあり、多数の剥片が出土しました。15B区での調査にも期待しています。（株式会社二友組　杉山敬亮）

写真 10　大栗遺跡遠景

写真 11　15 A区全景

写真9　空撮風景

地元説明会の舞台裏

七月の川向東貝津遺跡、八月の笹平遺跡の地元説明会では、たくさんの方々にご来場いただきましてありがとうございました。今回は地元説明会の開催に向けての舞台裏を紹介します。

地元説明会の最も重要な目的は、遺跡の立地する地元の方々に調査の成果を見ていただくことです。さらには、遺跡調査の学術的な報告の場でもあるため様々な事前の準備を行います。これまでに実施した地元説明会の準備作業をもとに説明します。

写真12　遺物の収納作業。出土した遺物の収納の前に確認作業を行います。

写真13　専門家による遺物の鑑定。遺物の時期、材質、加工方法などを観察。

写真14　遺跡検討会。埋蔵文化財センター職員や外部の専門家を招いて遺構の確認、遺物の鑑定なども行います。

写真15　直前の準備作業。安全通路の準備などをしています。

これらの準備を経て、遺跡の状況や遺物のおおよその年代など、調査の成果をご覧いただいています。

（愛知県埋蔵文化財センター　鈴木恵介）

写真 12　出土遺物の確認作業（川向東貝津遺跡）

写真 13　笹平遺跡出土　「石棒」を鑑定中
専門家のするどい視線が！

写真 14　遺跡検討会の様子（笹平遺跡）

写真 15　直前の準備作業（川向東貝津遺跡）

設楽発掘通信

No.13
平成27年9月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話　（0567）67-4161【管理課】　4163【調査課】
ホームページ　http://www.maibun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　株式会社二友組